

## 深谷小学校 外国語活動・外国語科 2月アンケート結果 考察

### 1 アンケート結果

- ・ 設問（１）（２）に「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と前向きに回答しているのは、１・２年生がともに94.5%であり、３・４年生は（１）84.2%（２）89.5%、５・６年生は（１）63.7%（２）90.9%である。
- ・ 設問（３）については、３・４年生ではどの項目も「分かる・できる」と自信を持って答えている児童が7月より増えている（①7.7%→47.4%、②38.5%→57.9%、③15.4%→57.9%）。５・６年生は、「分かる・できる」から「だいたい分かる・できる」に変わった児童がおり、7月を下回っている。①から⑥の「分かる・できる」を平均すると、7月49.9%、2月37.5%である。
- ・ 設問（４）（５）については、３・４年生の前向きな回答がともに94.7%であり、7月の（４）53.9%（５）76.9%から大きく伸びている。５・６年生はともに7月と同じ91%である。

### 2 今年度の成果

- １・２年生の設問（２）の前向きな回答は、7月の72.2%から94.5%へと大きく伸びている。計画的かつ児童の実態に応じた活動が実践できているものと考えられる。
- ３・４年生は、どの設問も7月から大きな向上が見られ、多くの児童が楽しく活発に活動していることが分かる。理由としては、1学期よりも、目的が明確であり成果物の得られる活動が多かったことも考えられる。
- ５・６年生は、タブレット（スライド、ドキュメント）を活用してスピーチする機会が多くなり、聞き手をより意識した発表につながっている。また、設問（６）で「友達との英会話」と多くの児童が答えており、コミュニケーション能力の向上もうかがわれる。

### 3 今年度の課題

- ５・６年生で設問（１）に前向きな回答をした児童が、7月81.9%から2月63.7%に落ち込んでいる。理由としては、設問（３）からも分かるように、前年度からの変容を児童自身が実感しづらい状況になっていることが考えられる。言語活動がパターン化してしまい、「つまらない」と感じた児童も一定数いたかもしれない。児童の実態に応じて、好奇心や意欲を掻き立てるような活動内容に工夫することが必要であった。

### 4 令和5年度の重点事項

- ◎ 児童の実態に応じた学習活動を行うこと。  
児童数や理解度に応じて、言語活動の内容や進め方を調整し、適度な負荷の程度を探っていく必要がある。また、活動がマンネリ化しないように、活動の「目的・場面・状況」や活動形態を変化させていくことも大切である。児童が興味を持って楽しく取り組めるような活動及び教材の開発に努めたい。
- ◎ 活動から教科へ、小学校から中学校へ円滑に移行すること。  
アルファベット指導、及び語彙指導の充実、自信を持って楽しく活動できるよう声掛けや個別指導を柔軟に行う、評価方法の再検討を、計画、実践していく。
- ◎ 中学校や他小学校との交流授業を継続し、共通の目的を持って授業改善に努めること。